

AUGUST

酒田だより



お知らせ

8月のミサ
10日 第2日曜
24日 第4日曜

- ☆ 8/15 (金) 聖母被昇天
鶴岡教会 10時から
(酒田ではミサ・集会祭儀は行われませんので個別で鶴岡教会で与ってください)
- ☆ 8/17 (日) 分かち合い行います
7月20日に発表していただいた「私の目標」を引き続き確認変更や補足など再度分かち合います。
- ☆ 献堂60周年に合わせて
今後1年ぐらいで教会内の不用品を整理、処分を皆で相談しながら行ってきたいと思います。
紙資源も担当者が腰を痛めているので皆様交代で紙資源日に搬出してくださるよう、ご協力ください。

8 朗読当番

3日	祭壇奉仕	荻原徹	17日	祭壇奉仕	西村浩太郎
	第1朗読	今野幸子		第1朗読	今野幸子
	第2朗読	齋藤純子		第2朗読	佐藤浩子
10日	先唱	柿崎圭介	24日	先唱	柿崎圭介
	第1朗読	折坂志津枝		第1朗読	折坂志津枝
	第2朗読	西村浩太郎		第2朗読	荻原徹
15日 (金) 聖母 被昇天	鶴岡教会 10:00 酒田でのミサ・集会祭儀は 行われません		31日	祭壇奉仕	荻原徹
				第1朗読	今野幸子
				第2朗読	佐藤浩子

『空のかなた きよらかに

ふな路しめす うみの星よ

波を蹴立てて 我らは行く

アヴェマリア アヴェリア』

(カトリック聖歌集より)

8月スケジュール

- 3日 (日) 年間第18主日
集会祭儀
教会内清掃
 - 10日 (日) 年間第19主日
ミサ
話合い
 - 15日 (金) 聖母被昇天
ミサ 鶴岡 10:00 a.m.
(酒田ではミサ・集会祭儀は行われません)
 - 17日 (日) 年間第20主日
集会祭儀 10:00 a.m.
分かち合い
 - 24日 (日) 年間第21主日
ミサ
 - 31日 (日) 年間第22主日
集会祭儀
- ミサ・集会祭儀時間
11:30a.m.





柿崎圭介

2025年6月29日、水戸教会でドネガン神父様の司祭叙階60周年記念ミサがあり参加してきました。

神父様の60周年のあゆみは、【つくば教会だより2025年6月号】を読んで頂ければと思います。

60年という長きにわたり、司祭として神に仕え、私たちが信仰の道へと導いて頂いている事に感謝しかありません。

ドネガン神父様は、現在の酒田教会の聖堂が献堂（1967年11月）する前の1966年9月から10月と短い期間ですが、兼任司祭として赴任されています。その後は、2008年4月から2012年3月の4年間に渡り、第10代主任司祭として私たちを導いてくれました。

このように酒田教会とは、とても縁の深い神父様です。

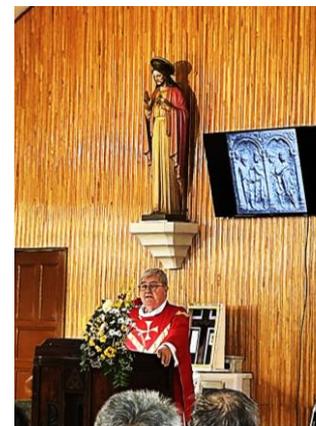
現在は、茨城県のつくば教会の主任司祭に赴任されています。

つくば教会は、多くの外国の信者が来ており、私も英語ミサに与かってきました。

若者に溢れ活気があり、とても羨ましい限りです。

ドネガン神父様には、これからも元気で頑張ってもらいたいと思います。

チョット、足が悪いのが気掛かりですが・・・



つくば教会だより 2025年6月号

編集:カトリックつくば教会 〒305-0834 茨城県つくば市手代木 261-6
TEL 029-836-1723 FAX 029-836-4136
ホームページ <https://www.catholic-tsukuba.com/>

“司祭として過ごした60年間”

1958年、高校を卒業した私は、修道生活への第一歩を踏み出しました。きっかけは、ある司祭の講演でした。彼は話があまり上手ではありませんでしたが、イエズス・マリアの聖心会への深い愛と、若者たちが神に答えて宣教師となるようにと祈る心が、言葉を通して強く伝わってきました。私はその司祭に、修道生活に興味があることを伝え、卒業後、修道会に入りました。そこから、祈りと学びに満ちた新しい生活が始まりました。アイルランドで1年間修練院に通い、その後は司祭になるための準備として、アメリカで6年間学びました。

1965年6月、イエズスとマリアの聖心会で司祭に叙階され、同年9月、日本に派遣されました。それから60年が経ちました。今、日本でこのこれまでの歩みを振り返ると、心は喜びと感謝であふれています。

神さまは、私をこの修道会に呼び、そして今も毎日、祈りと礼拝の中でご自身の愛を注いでくださいます。その愛を、出会う人々と分かち合うよう、優しく呼びかけてくださっているのを感じます。また、イエスとマリアのことを教えてくれ、祈ることの大切さを身をもって示してくれた両親にも心から感謝しています。特に、祈りを必要とする人々のために祈るという姿勢は、今の私の働きの土台になっています。

毎朝教会を訪れ、「召命」という恵みをくださった神さまに感謝し、その日出会うすべての人々、特に病気の方、高齢の方、神の愛を求めている方々に、神さまの愛をもって接することができるよう祈っています。日々与えられる恵みと祝福を思い起こし、それをどれだけ大切に使えるかを振り返ります。そして、うまくできなかったことや失敗には、神の赦しを願っています。

私は、日本という、信仰のために命を捧げた殉教者たちの国に遣わされたことを、いつも神さまに感謝しています。殉教者たちの思いは、今を生きる私たちに、善を行い、神の愛を人々に示すよう呼びかける、大きな励ましであり恵みです。たしかに、日本の文化や言葉は、ヨーロッパとは大きく異なり、習得も簡単ではありませんでした。しかし、神の愛は、ここつくばの自然の中にも、人々の心の中にも、確かに息づいています。

私たちの教会—平和の君つくば教会は、20か国以上の国籍を持つ人々が集う、国際的な共同体です。文化や言語はさまざまでも、私たちは皆、神の愛、そして我らの母・聖マリアの愛によって、ひとつに結ばれています。

この60年間、神さまと、皆さんとともに歩んでこられたことに、心から感謝しています。

これからも、祈りのうちに、共に神の愛を生きてまいりましょう。

カトリックつくば教会担当司祭

ウィリアム・ドネガン

